



富国有徳の理想郷
“ふじのくに”づくり

静岡県

富国有徳の理想郷 “ふじのくに”づくり

～ポスト東京時代 地域づくりの新モデル～

県政運営の基本理念

富士を有する静岡県は、県政運営を行う上での基本理念として、「富国有徳の理想郷 “ふじのくに”づくり」と掲げ、「徳のある、豊かで、自立した」地域づくりを進めていきます。

基本理念

富国有徳の理想郷 “ふじのくに”づくり
“ふじのくに”の徳のある人材の育成
“ふじのくに”の豊かさの実現
“ふじのくに”の自立の実現

<富国有徳>

徳のある人々が物心ともに豊かに暮らす地域を目指し、文化の持つ魅力、すなわち文化力を高め堅実な経済成長を図ります。富士山のように「豊かに廉直に生きること」を示しています。

<ふじ>

- 「不尽」 尽きることのない価値の源泉
- 「不死」 不老長寿のシンボル
- 「不二」 唯一、オンリーワン
- 「富士」 物と心の豊かさ

多様な意味を込めて平仮名で
“ふじのくに”と表しました。

理想郷として目指す姿

県民幸福度の最大化

住んでよし 訪れてよし

人々を惹きつけ憧れられる
“ふじのくに”

- ・生活と自然が融合し、家庭への温もりをもたらす住空間
- ・国内外との交流を通じて地域がにぎわう社会経済の仕組み

生んでよし 育ててよし

将来に向けて明るい展望を描くことのできる“ふじのくに”

- ・安心と思いやりの中で、温かい家庭を育むことができる人生
- ・志を抱き実現に向かって励む生き方

学んでよし 働いてよし

自分の生き方を自由に
選択できる“ふじのくに”

- ・生涯にわたって自己を高めることのできる学びの場
- ・誰もが能力と個性を発揮でき、生活の質の向上を実現する場

“ふじのくに”づくりとは

富士山は、日本の最高峰というばかりではなく、古くから信仰の対象として崇められ、詩歌や絵画などの芸術文化の源泉として愛され、清らかな水を恵んで生命を育む神のごとき存在として尊ばれ、人々の心を惹きつけてきました。

「美の文明」のシンボルであり、「和の文明」を象徴する富士山を擁する私たちの大地は、一国に匹敵する人口や経済力を備えるとともに、ヒト、モノ、大地といった日本の縮図とも言うべき「場力」を有しており、ポスト東京時代の地域自立の新モデルを築く気概をもって地域づくりに挑みます。

県民幸福度の最大化に向けた6つの重点取組

“ふじのくに”が目指す「県民幸福度」の最大化に向けて、
総力を挙げて重点的に取り組めます。

多くの人々を惹きつけ、呼び込み、定住を促進していくために、“ふじのくに”ならではの魅力を生かし、生活と自然が調和する「大地に根ざした住まい空間」を提供します。

観光は、地域経済を活性化し雇用創出を導き、国内外との交流は相互理解を深め活力を呼び込む力となることから、“ふじのくに”の光を多くの人に観（魅）せ、観光交流人口を飛躍的に増やします。

住んでよし

家・庭一体の
住まいづくり

訪れてよし

観光交流
人口の倍増

出生率
の向上

新たな産業の
フロンティア
開拓

県民幸福度の最大化

生んでよし

次代を担う子どもたちが増え、将来への明るい展望が開かれるよう、出生率の高い自治体に着目し、優れた点を成功モデルとして普及を図ります。

働いてよし

内にある場力や需要に着目し、新結合の発想で新たな価値を創造していくことにより、地域経済を牽引する産業を創出します。

地域医療
の再生

創造力を生む
「学びの舞台」
の展開

育ててよし

安心して子どもを育て、いつまでも健康な生活を送れるよう、医療従事者の確保をはじめ、地域医療の建て直しを図ります。

学んでよし

人々の心の豊かさや産業活力の源となる人間力を高めていくため、地域全体が「学びの舞台」となるよう仕掛けていきます。

“ふじのくに”づくりの戦略体系

「徳のある、豊かで、自立した」地域づくりの道筋

「命」

「命」を守る危機管理 【危機管理・災害対策】

“ふじのくに”づくりの最も大切な基礎となる危機管理体制を充実します。

- ① 減災力の強化
- ② 地域防災力の充実・強化
- ③ 防災力の発信
- ④ 災害に強い地域基盤の整備

“ふじのくに”の徳のある人材の育成

「有徳の人」 「有徳の人」づくり

【教育】

「文・武・芸」三道のいずれをも尊ぶ学校づくりをはじめ、子どもから大人まで人生のそれぞれの段階に応じた「学びの場」を提供し、未来を拓く人材を育てます。

- ① 心と体の調和した人間形成の基礎づくり
- ② 「文・武・芸」三道の鼎立を目指した学校づくり
- ③ 生涯学習を支える社会づくり

「憧れ」 「憧れ」を呼ぶ“ふじのくに”づくり

【文化・観光】

多彩で魅力ある文化の創出と継承を図るとともに、誰をも惹きつけ、もてなす地域の魅力を高め、内外との多様な交流を拡大し深めていきます。

- ① 多彩な文化の創出と継承
- ② スポーツに親しみ技量を高める環境づくり
- ③ 多文化共生と新たな地域外交の推進
- ④ 交流を支えるネットワークの充実
- ⑤ 誰をも惹きつけ、もてなす魅力づくり
- ⑥ 多様な交流の拡大と深化



“ふじのくに”の豊かさの実現

「ものづくり」と「ものづくり」と 「ものづくり」と「ものづくり」の創造

【経済産業】

さまざまな地域資源を、新しい視点で組み合わせ使い、新たな価値を生み出すなど、6次産業や次世代産業の創出、活気のある地域産業の振興を図ります。

- ① 新結合による「場力」の向上
- ② 次世代産業の創出
- ③ 活気ある地域産業の振興
- ④ 生きる力の源となる農林水産業の強化
- ⑤ 誰もが活躍できる就業環境の実現

「和」 「和」を尊重する暮らしの形成

【くらし・環境】

住まいに自然とのふれあいを取り入れた暮らし空間倍増の実現をはじめ、環境に負荷の少ない社会や、多様な主体が活躍し誰もが暮らしやすい社会の仕組みづくりを進めます。

- ① 快適な暮らし空間の実現
- ② 安全で安心できる心豊かな消費生活の推進
- ③ 地球を守る低炭素・循環型社会の構築
- ④ 自然と調和する美しい景観の創造と保全
- ⑤ 自然との共生と次世代への継承
- ⑥ 誰もが暮らしやすい社会の仕組みづくり

「安心」 「安心」の健康福祉の実現

【健康福祉】

安心して子どもを産み育てることができる環境を整えるとともに、質の高い医療、介護サービス、障害者支援などを安心して受けられる医療・福祉体制を構築します。

- ① 安心して子どもを産み育てられる環境整備
- ② 安心医療の提供と健康づくりの推進
- ③ 障害のある人の自立と社会参加
- ④ いきいき長寿社会の実現
- ⑤ 希望や自立につなぐセーフティネットの整備

“ふじのくに”の自立の実現

「基盤」 ヒト、モノ、地域を結ぶ「基盤」づくり

【交通基盤】

“ふじのくに”の活力源となる多自然共生地域の生活基盤や生産基盤を強化するとともに、交通ネットワークや都市機能を拡充し、利便性が高く安全な社会基盤を整えます。

- ① 活力ある多自然共生地域の形成
- ② 賑わいと潤いを生む都市空間の創造
- ③ 陸・海・空の交通ネットワーク機能の拡充

「安全」 「安全」な生活と交通の確保

【防犯・警察】

人々を犯罪から守る防犯活動や交通事故防止対策を進めるとともに、治安情勢への対応力を充実強化します。

- ① 官民協働による犯罪に強い社会づくり
- ② 総合的な交通事故防止対策の推進
- ③ 犯罪発生を抑える警察力の強化

「行政経営」 地域主権を拓く「行政経営」

【経営管理・企画広報】

多様化・高度化する県民ニーズに的確かつ柔軟に対応するため、県民の参画を得ながら、透明性が高く効果的、能率的で戦略的な行政運営を推進します。

- ① 透明性の高い行政運営
- ② 効果的で能率的な行政運営
- ③ 未来を見据えた戦略的な行政運営

地域づくりの基本方向

5つの地域圏が相互に機能を分担・補完、連携し、
県全体として、多様な地域性が調和する高質で多彩な機能を備えた
「富国有徳の理想郷 “ふじのくに”」を形成します。

西部地域

『世界トップクラスの環境技術や多彩な文化で最先端をいく躍進都市圏』

(主な取組)

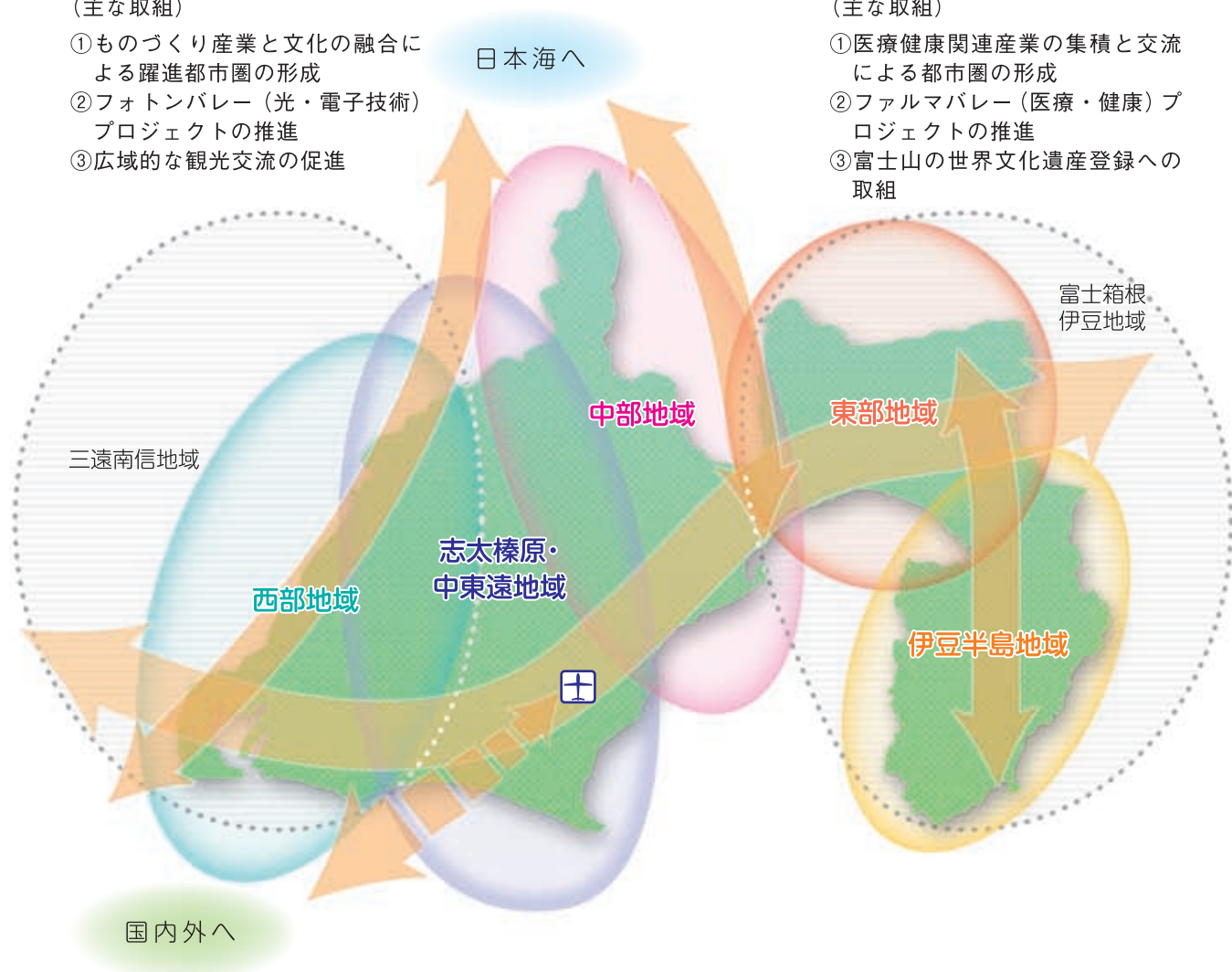
- ①ものづくり産業と文化の融合による躍進都市圏の形成
- ②フォトンバレー（光・電子技術）プロジェクトの推進
- ③広域的な観光交流の促進

東部地域

『日本のシンボル富士山を世界との交流舞台とした健康交流都市圏』

(主な取組)

- ①医療健康関連産業の集積と交流による都市圏の形成
- ②ファルマバレー（医療・健康）プロジェクトの推進
- ③富士山の世界文化遺産登録への取組



志太榛原・中東遠地域

『世界に羽ばたく“ふじのくに”の玄関口を担う新たな多極分担型交流圏』

(主な取組)

- ①空港を核とした多極分担型の地域づくり
- ②陸・海・空の交通基盤を生かした多彩な産業の創出
- ③「ガーデンシティ」としての地域の魅力づくり

中部地域

『日本の理想郷“ふじのくに”の県都にふさわしい中枢都市圏』

(主な取組)

- ①学・住一体の「カレッジタウン」など新たな都市拠点づくり
- ②フーズ・サイエンスヒルズ（食品）プロジェクトの推進
- ③多彩な広域交流の促進

伊豆半島地域

『世界レベルの魅力あふれる自然を生かした観光交流圏』

(主な取組)

- ①地域が一体となった世界ジオパークへの取組
- ②国際的な健康保養地づくり
- ③定住・交流居住の促進

※地域区分は厳密に区切られるものではなく、更なる広域化の動きに柔軟に対応し、広域的な施策を展開します。

数値目標（概ね10年後の目標値）

1 「命」を守る危機管理

危機管理	東海地震で想定される死者数(第3次地震被害想定約5,900人)	△1,521人 (平成20年度)	▶	半減以下
	大規模災害時に必要不可欠な情報の共有化	—		100%

2 “ふじのくに”の徳のある人材の育成

教育	「思いやりを持って行動ができる有徳の人が増えている」と感じている人の割合	9.9% (平成21年度)	▶	50%
	「文・武・芸」のいずれかの分野において自己を磨く努力をしている人の割合	48.5% (平成21年度)	▶	80%
文化	1年間に芸術や文化を鑑賞した人の割合	61.8% (平成21年)	▶	90%
	1年間に芸術や文化の活動を行った人の割合	19.6% (平成21年)	▶	50%
観光	富士山に関心のある人の割合	—		100%
	観光交流客数	1億4,075万人 (平成21年度)	▶	30%増
	外国人留学生数	1,601人 (平成21年5月)	▶	4,000人

3 “ふじのくに”の豊かさの実現

全般	静岡県が住みよいと思っている人の割合	58.9% (平成21年度)	▶	80%
	1人当たり県民所得	338.4万円 (平成19年度)	▶	30%増
	食料自給率(生産額ベース)	52% (平成20年概算値)	▶	70%
	合計特殊出生率	1.43 (平成21年)	▶	2
経済・産業	人口の社会移動	▲3,138人 (平成21年)	▶	転入超過
	県内総生産(名目)	15兆916億円 (平成21年度速報値)	▶	20兆円
	「食」関連産業の県内生産額・販売額	—		1兆円増
暮らし・環境	年間有効求人倍率	0.4倍 (平成21年度)	▶	1.2倍以上
	環境保全活動を実践している県民の割合	76.7% (平成21年度)	▶	100%
健康・福祉	「自分が住んでいる地域の景観を誇りに思う」人の割合	68.4% (平成21年度)	▶	80%
	「自分の住んでいるまちが子どもを生み、育てやすいところ」と感じている人の割合	56.0% (平成21年度)	▶	80%
	自立高齢者の割合	86.1% (平成20年度)	▶	90%
	自立し社会参加していると感じている障害のある人の割合	20.2% (平成18年度)	▶	70%

4 “ふじのくに”の自立の実現

交通・基盤	中心都市等への30分行動圏人口カバー率	87.2% (平成21年度)	▶	93%	
	日ごろ生活を営んでいる範囲において、都市機能が充足していると感じている人の割合	52.8% (平成21年度)	▶	60%	
防犯・警察	刑法犯認知件数	41,069件 (平成21年)	▶	30,000件以下	
	交通(人身)事故の年間発生件数	35,878件 (平成21年)	▶	30,000件以下	
行政経営	財政健全化の状況	経常収支比率	92.5% (平成20年度)	▶	90%以下
	実質公債費比率	11.7% (平成20年度末)	▶	18%未満	
	県債残高(通常債)	1,961兆円 (平成21年度末)	▶	2兆円程度を上限	
	将来負担比率	248.1% (平成20年度末)	▶	400%未満	
営	県から市町への権限移譲数(法律数)	日本一(122) (平成22年4月)	▶	日本一	
	行政透明度	—		日本一	